

エダマメ (マメ科)

ダイズを若どりしたものがエダマメ。播種時期にあわせて品種を選ぶ。肥料のやりすぎや鳥害に注意する。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
トンネル移植栽培				保温 播種	トンネル 定植		収穫						
露地移植栽培			保温 播種										
露地直播栽培													

1) 適地

温暖またはやや冷涼な気候に適し、排水のよいところであれば、どんな土壌でも作ることができます。土の酸度は弱酸性が理想です。根には「根粒菌」が付いていて、この菌が空気中の窒素を取り込んで栄養にしますので、窒素を多く施す必要はありません。また、連作障害が発生しやすいので、4～5年あけるようにします。

2) 品種

早生種（夏ダイズ）、中生種（中間型）、晩生種（秋ダイズ）があり、播種の時期に合わせて品種を選びます。中・晩生種を早播きすると開花が遅れて徒長し、収穫できなくなります。

早生種（4～5月播き）：奥原早生、サッポロミドリ、白鳥、げんき娘、快豆黒頭巾、たんくろう、スーパーたんくろう

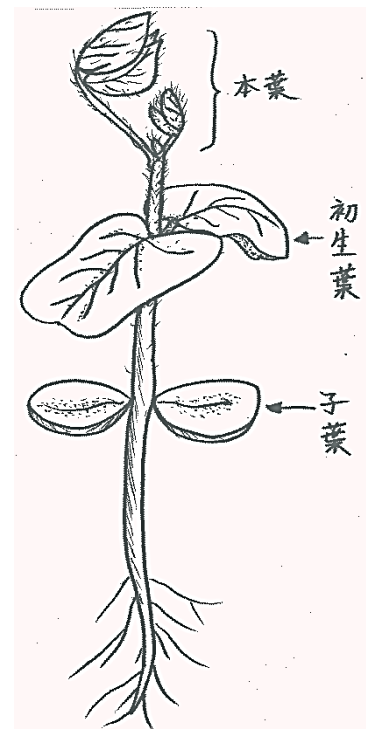
中生・晩生種（6月播き）：錦秋、香里、サヤムスメ、丹波黒、緑光

3) 作り方

【圃場の準備】定植または播種の1か月前に1㎡当たり堆肥2kgと苦土石灰100g、ようりん50gを施用し耕しておきます。基肥は1週間前に1㎡当たり緩効性肥料60gを施しますが、肥沃なところでは基肥を施用しないか量を減らします。畝は1条植えて幅80cm、2条植えては幅150cmとなるよう立てます。

【播種】直播栽培では深さ3cm、1か所2～3粒の点播きとします。株間は1本仕立てで17～20cm、2本仕立てでは20～30cmで、早生種は狭く、中・晩生種や肥沃なところでは広くします。

【育苗・定植】トンネル移植栽培、露地移植栽培では、深さ8cmの育苗箱（トロ箱）かペーパーポットに播種し、トンネル育苗します。初生葉が完全に展開した頃が定植の適期で



定植適期の苗

す。根をできるだけ切らないようにして、1か所に2本植えつけます。トンネル移植栽培では、日中トンネル内が高温にならないよう換気します。

【間引き・摘芯】直播栽培では、草丈が10cmの頃に根が傷まないよう地際で切り取って1本に間引きます。主枝は放任としますが、本葉4～5枚の頃に主枝を摘芯して側枝を出す方法もあります。

【追肥・土寄せ】追肥は、開花始めの頃とその2週間後に1m²当たり高度化成肥料20gを施します。また、追肥と同時に土寄せを行い、倒伏を防止します。

【管理】開花期から着莢期は水分が不足しないように十分灌水します。

【収穫】豆が十分太り、莢を指で押すと中の豆がとび出す頃が収穫の適期です。収穫の適期幅は短く、とり遅れると実が硬くなるので注意します。収穫した豆は、冷凍保存できます。



収穫期のエダマメ

4) 病虫害防除

害虫では、アブラムシ類、ハダニ類、ダイズサヤタマバエ、コガネムシ類、カメムシ類に注意し、発生したら早目に防除します。また、播種直後には鳥害を受けやすいため、忌避効果のある農薬をあらかじめまぶしておくといでしょう。

★黒大豆をエダマメとして食べてみよう！

6月上～中旬、ポリポットに播種し、本葉が見えた頃、株間30cmの1条植えにします。7月中旬には双葉の下まで、7月下旬には初生葉が隠れる程度に土寄せします。側枝に莢をたくさんつけるために、2回目の土寄せのとき（本葉5～6枚のとき）摘芯します。施肥はエダマメに準じてください。10月上旬から収穫できます。